

## 2. 火山の概況

(平成 16 年 1 月 22 日 ~ 平成 16 年 1 月 28 日)

期間中、5 火山の火山活動度レベル (以下、レベルという。) に変化はなかった。

阿蘇山は、14 日に規模の大きい土砂噴出が発生してレベルが 2 から 3 に上昇している。浅部の熱的な活動が活発である。

浅間山では地震がやや多い状態が続いた (レベル 2)。

その他の火山については、吾妻山では地震が多くなった。三宅島では噴煙活動が継続した。福岡ノ場では変色水が確認された。霧島山では噴気活動が継続した。諏訪之瀬島では噴火があった。

(なお、1 月 27 日に開催された第 97 回火山噴火予知連絡会による全国の火山活動概況及び三宅島の火山活動に関する統一見解を、参考に添付した。)

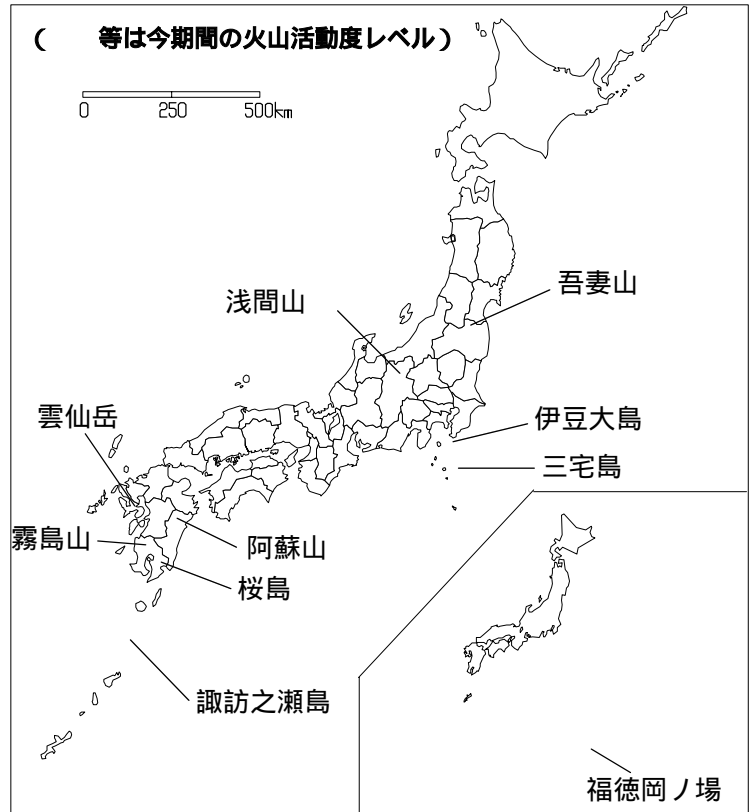


図 1 記事を掲載した火山

表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		吾妻山	焼岳	三宅島	福岡ノ場	霧島山	諏訪之瀬島	
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号							
5	1/22- 1/28																	
4	1/15- 1/21																	
3	1/ 8- 1/14																	
2	1/ 1- 1/ 7																	
1	12/25-12/31																	

**注 1 記号の意味**  
 : 噴火した火山  
 : 観測データ等に变化があった火山  
 : 前期間まで や で掲載した火山の、その後の状況等  
 : その他記事を掲載した火山  
**等の丸付き数字** : 火山活動度レベル

**注 2** 本文の火山名の後ろの [噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等] は、变化があった観測データ項目を示す。

### 吾妻山 [地震]

一切経山 (大穴火口付近) の地下、深さ数 km を震源とする微小な地震は、昨年 12 月以降増加傾向にあったが、1 月 10 日 ~ 17 日にかけてさらに多くなった。18 日以降は減少したものの、22 日 ~ 23 日にかけて再び増加し、23 日の地震回数は 126 回となった。その後も 1 日あたり 14 回 ~ 31 回と、やや多い状態が続いている (以上図 2)。

なお、この地震活動に関係

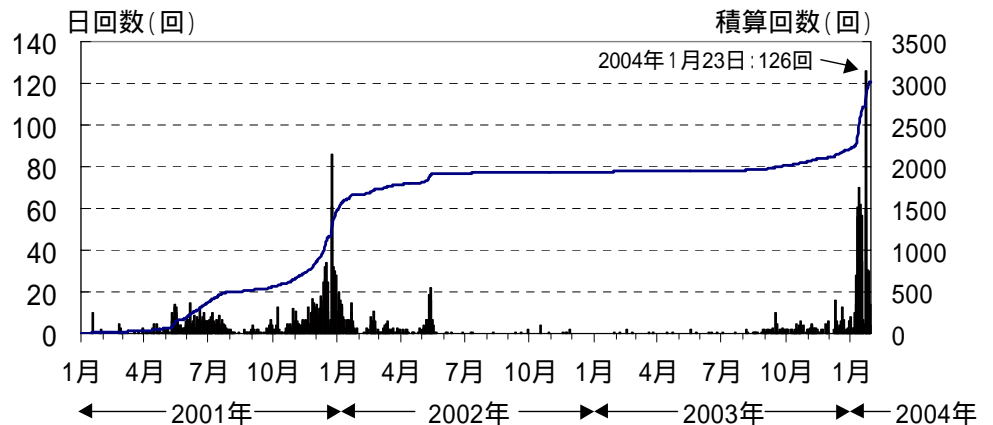


図 2 吾妻山 地震の日回数 (折れ線は積算回数)  
(2001 年 1 月 1 日 ~ 2004 年 1 月 28 日)

して、噴気活動や地殻変動には特に変化はない。

### 浅間山 [地震・微動・熱] レベル2 (やや活発な火山活動)

昨年6月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、今期間も1日あたり51~62回とやや多く観測された。

振幅の小さい微動は、25日、26日に1回観測された(前期間は1回)。

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外カメラでは、火口底で引き続き高温部が観測されたものの、高温部の面積は徐々に縮小しており、火口内の温度は全体的に低下しているとみられる。

### 伊豆大島 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動は静穏で、噴煙は確認されなかった。また、地殻変動等、その他の観測データにも異常な変化はなかった。

### 三宅島 [噴煙・地震]

噴煙活動は引き続き活発で、白色の噴煙が山頂火口から連続的に噴出した。期間中の噴煙の高さの最高は、火口縁上1,200mであった(前期間の最高は500m)。

振幅の小さいやや低周波の地震は、23日19時50分頃~21時頃にかけて多発(この時間だけで58回発生)し、23日の日回数は108回となったのをはじめ、それ以外の日も1日あたり30~52回と、やや多く観測された。なお、この地震活動に関して、噴煙活動や地殻変動など、その他の観測データには特に変化はみられなかった。

GPSによる地殻変動観測では、昨年6月頃から再び三宅島の収縮傾向を示している。

### 福徳岡ノ場 [変色水]

26日13時45分~14時05分に海上保安庁第三管区海上保安本部が行った上空からの調査によると、福徳岡ノ場付近の海面に、最大幅約150mで、西北西の方向に約1km延びる、帯状の薄い黄緑色の変色水が確認された。軽石等の浮遊物等はなかった。変色水の確認は昨年12月29日以来である。

### 阿蘇山 [熱・微動] レベル3 (小規模噴火の可能性)

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発で、孤立型微動が多い状態で推移した。

中岳第一火口内の状況は、28日に実施した現地観測によると、見かけ上の湯だまりの面積は約4割、湯だまりの色は灰色であった。15日の観測時に断続的に発生していた、高さ5m程度の規模の小さい土砂噴出は、噴煙の勢いが強く確認できなかった。湯だまり内の噴湯現象は、引き続き1か所で確認された。湯だまり表面の温度の最高は73と依然高い状態が続いている。また、南側火口壁の温度の最高も282と依然高い状態であった。なお、15日の観測で確認された、14日の規模の大きな土砂噴出により火口壁に付着した噴出物痕は、積雪のため見えなくなっていた。

孤立型微動は引き続き1,700回程度と多かったが、それ以外は地震の発生回数は少なく、噴煙活動や、GPS等による地殻変動の観測データには特に異常な変化はなかった。

### 雲仙岳 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも異常な変化はなかった。

### 霧島山 [噴気]

御鉢の噴気活動は、24日、26日、27日に白色の噴気が時折火口縁を越えて高さ100~300mまで上がっているのが確認された。

その他の観測データには特に異常な変化はなかった。

### 桜島 [噴煙] レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中、噴火はなかった(最後に噴火したのは1月12日)。

噴煙活動は活発な状態が継続しており、噴煙の高さの最高は火口縁上1,100m(白色)であった。

鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)では降灰はなかった(降灰は2004年に入ってから観測されていない)。

### 諏訪之瀬島 [爆発・噴煙・地震・微動]

22日に爆発が1回発生した(前期間は爆発3回)。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、22日と23日に山頂火口から火山灰を含む噴煙を上げていたが、集落(御岳の南南西4km付近)への降灰はなかった。

期間中、連続微動は発生しなかったが、22日に微小な地震がやや多くなった。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
吾妻山	火山観測情報第1号	23日 14:00	微小な地震がやや多い。 第97回火山噴火予知連絡会の検討結果。
	火山観測情報第2号	27日 17:30	
三宅島	火山観測情報第39号 (1日2回発表)	22日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。 第51号は第97回火山噴火予知連絡会の統一見解。
	火山観測情報第50号	27日 16:30	
	火山観測情報第51号	27日 17:30	
	火山観測情報第52号	28日 09:30	
	火山観測情報第53号	28日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第7号	23日 11:15	火山活動が引き続き活発(孤立型微動が多い状態。火口内の状況は悪天候のため不明)。火山活動度レベルは3。 第97回火山噴火予知連絡会の検討結果(火山活動が活発になっている)。
	火山観測情報第8号	26日 13:00	
	火山観測情報第9号	27日 18:20	
霧島山	火山観測情報第8号	23日 15:00	御鉢の火山活動は消長を繰り返しながら収まってきている(噴気活動低下、地震回数が減少)。
	火山観測情報第9号	26日 15:00	

## 参考

平成 16 年 1 月 27 日、第 97 回火山噴火予知連絡会が開催され、同連絡会は、最近の全国の火山活動について委員及び関係機関からの報告をもとに取りまとめ、終了後、気象庁から以下のとおり発表しました。

平成 16 年 1 月 27 日  
気 象 庁

### 第 97 回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について

三宅島では、依然として山頂火口から二酸化硫黄を含む火山ガスが放出されています。別紙のとおり統一見解を発表しました。

阿蘇山では、1 月 14 日に中岳第一火口から規模の大きな土砂噴出が発生し、火山活動が活発になっております。今後、噴石を火口外に飛ばすような噴火の可能性もあります。

霧島山では、御鉢火口で新しい噴気孔が形成されました。現在の活動は収まってきていますが、再び活発化する恐れがあります。

全国の火山活動状況は以下のとおりです。

#### 1. 北海道地方

##### 1) 雌阿寒岳

- ・地震活動は最近 2～3 ヶ月は静穏に経過しましたが、2000 年後半以降一時的な地震の増減を繰り返しながらやや活発な状態が続いています。
- ・ポンマチネシリ 96-1 火口は 2000 年以降噴煙活動がやや弱まり、火口温度もやや低下しましたが、現在も 400 前後の高温を維持していると推定されます。
- ・以上のことから、現在も火山活動はやや活発な状態が続いていると考えられます。

##### 2) 十勝岳

- ・地震活動は、1999 年後半以降顕著な地震増加は見られず、静穏に経過しました。
- ・62-2 火口は噴煙量や火口温度が最近 2～3 年やや低下傾向にあります。噴煙活動は依然活発で火口温度も 300 以上と高温状態が続いていると推定されます。
- ・以上のことから、火山活動は現在もやや活発な状態が続いていると考えられます。なお、火口直下の増圧によると考えられる地殻変動は観測されていません。

##### 3) 樽前山

- ・地震活動は 1996 年以降一時的な地震の増減を繰り返しながら活発な状態が続いています。1999 年には熱活動も高まり、その状態は現在も続いています。
- ・A 火口および B 噴気孔群では 2003 年 10 月に噴煙活動が活発化して火口温度も上昇しました。その後、B 噴気孔群の噴煙量は 12 月以降やや減少しました。また、高感度カメラで B 噴気孔群が夜間明るく見える現象は 10 月 18 日を最後に観測されていません。
- ・9 月下旬に山頂部の常時微動レベルが増大しましたが、その後は徐々にレベルを低下させる傾向にあります。
- ・山頂部のわずかな膨張は、2003 年 10 月以降認められていません。
- ・以上のように、火山活動は最近わずかに低下する傾向が見られるものの、A 火口および B 噴気孔群では依然として活発な状態が続いています。

##### 4) 有珠山

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

##### 5) 北海道駒ヶ岳

- ・地殻変動は 1997 年の観測開始以降、継続してわずかながら山体膨張の傾向を示しています。

- ・2000年噴火活動後の熱活動は全体として低下していますが、2003年9月以降、昭和4年火口と96年南火口列の弱い噴気がしばしば観測されています。
- ・北海道駒ヶ岳では1996年から2000年までの間に6回の小噴火が発生しており、噴火発生の数年前に小噴火を繰り返した1929年大噴火や1942年中噴火の前の状況と類似しています。なお、地震活動には特段の変化はなく、静穏に経過しました。

## 2. 東北地方

### 1) 岩手山

- ・西岩手山での噴気活動と東岩手山山腹下のやや深い低周波地震が続いているものの、火山活動は穏やかに経過しました。

### 2) 秋田駒ヶ岳

- ・火山活動に特別な変化はなく、穏やかに経過しました。

### 3) 吾妻山

- ・火山活動は12月以降やや活発化しています。
- ・2003年12月以降、一切経山付近で微小地震の活動が活発化しています。1月9日～17日、22日～23日に更に増加しました。
- ・噴気活動や地殻変動に変化はありません。
- ・今回の地震活動は、1998年6月以降繰り返し観測されている一切経付近における一連の群発地震活動の1つと考えられます。

### 4) 安達太良山

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

### 5) 磐梯山

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

## 3. 関東・中部地方

### 1) 那須岳

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

### 2) 草津白根山

- ・地震活動は静穏な状態が続きましたが、熱活動、化学組成には若干の変化が見られます。

### 3) 浅間山【火山活動度レベル2(やや活発な火山活動)】

- ・地震活動は、最近若干減少傾向ですが、2000年9月からの活発な状態が続いています。
- ・今後も火口周辺に降灰をもたらす程度の、小規模な噴火が発生する可能性があります。活動はやや低下する傾向も見られます。

### 4) 焼岳

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

### 5) 御嶽山

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

### 6) 富士山

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。
- ・東北東山腹で2003年9月に確認された地面の陥没とごく弱い噴気は、その後、温度等のデータに大きな変化は見られません。また、地震活動、地殻変動等のデータにも異常な変化が見られないことから、噴火活動に直接繋がる現象ではないと思われます。

### 7) 伊豆東部火山群

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

### 8) 伊豆大島【火山活動度レベル1(静穏な火山活動)】

- ・長期的には、島の膨張傾向、火口下の帯磁傾向が継続していますが、2003年以降、やや鈍化しています。2003年は地震活動も低調に推移しました。

### 9) 三宅島

- ・別紙のとおり統一見解を発表しました。

### 10) 八丈島

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

#### 11) 硫黄島

- ・地震活動は比較的静穏ですが、地殻変動は進行しています。

### 4. 九州地方

#### 1) 九重山

- ・1995年10月の噴火で生成した火孔群の噴煙活動は弱まり、火山活動は静穏に経過しました。

#### 2) 阿蘇山【火山活動度レベル2(やや活発な火山活動) 3(小規模噴火の可能性)】

- ・2004年1月14日15時41分頃に規模の大きな土砂噴出が発生しました。土砂噴出に伴う降灰は、火口から東南東約8kmまで分布し、少量の新鮮なガラス片が含まれていました。翌日に実施した観測によると、中岳第一火口壁には、黒色の噴出物が付着していました。また、湯だまりは黒灰色に変色し、高さ約5mの土砂噴出が断続的に発生していました。
- ・なお、2003年には、地下深部に原因があると思われるわずかな膨張がGPSで観測されました。
- ・孤立型微動及び火山性地震の増加、湯だまり温度の上昇、湯だまりが変色するなど、火山活動は活発化しています。
- ・今後、噴石を火口外に飛ばすような噴火の可能性もあります。

#### 3) 雲仙岳【火山活動度レベル1(静穏な火山活動)】

- ・火山活動に特別の変化はなく、静穏に経過しました。

#### 4) 霧島山

- ・新燃岳付近の火山活動は、静穏な状態で経過しました。
- ・御鉢付近の火山活動は2003年10月までは静穏な状態で経過していましたが、11月より火山性微動を観測し、12月は火山性微動発生後、火山性地震もやや多い状態となり、さらに御鉢火口内に新しい噴気孔が2ヶ所形成されました。また、火山性微動に対応する傾斜変動も観測されるなど、火山活動がやや活発になりました。
- ・現在の活動は収まってきていますが、中長期的には活動が活発化する恐れもあります。火口内および火口周辺では注意が必要です。

#### 5) 桜島【火山活動度レベル2(比較的静穏な噴火活動)】

- ・桜島南岳は引き続き山頂噴火を繰り返しましたが、桜島の活動としては比較的静穏な状態が続きました。10月から1月25日までの噴火回数は7回、うち爆発的噴火は4回でした。
- ・火山性地震、火山性微動は総じて少ない状態で経過しましたが、桜島の南西沖を震源とするA型地震が増加しました。

#### 6) 薩摩硫黄島

- ・10月に2回噴火しました。
- ・連続した火山性微動が10月と11月に発生するなど、火山活動はやや活発な状態でしたが、12月以降は穏やかな状態が続いています。

#### 7) 口永良部島

- ・火山性地震の発生回数に目立った増加は見られませんが、時折、火山性微動が発生するなど、火山活動はやや活発な状態となっています。

#### 8) 諏訪之瀬島

- ・10月から1月19日までに爆発的噴火が14回発生し、火山灰混じりの噴煙と降灰が、時折確認されるなど、火山活動はやや活発な状態となっています。

### 5. 海底火山

- ・福徳岡ノ場では、変色水が度々観測された。

平成 16 年 1 月 27 日  
気 象 庁

### 三宅島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

三宅島の火山活動は、全体としてゆっくりと低下してきていますが、2002（平成 14）年から 2003（平成 15）年にかけて地下深部からのマグマ供給の一時的な増加に対応すると思われる地殻変動が見られるなど短期的には揺らぎがあります。最近 1 年あまり火山ガス放出量はほぼ横ばいとなっており、火山ガスの放出は当分の間継続する可能性もあります。

三宅島の山頂火口からの噴煙高度及び火山ガスの放出量は長期的には低下してきています。そのうち、二酸化硫黄についても、放出量はゆっくりと減少してきましたが、最近 1 年あまりは、1 日あたり 3 千～1 万トン程度と概ね横ばい傾向となっています。火山ガスの組成に顕著な変化は依然認められず、マグマ中のガス成分濃度や脱ガスの条件などに大きな変化はないと考えられます。放熱率も最近 1 年半程度顕著な変動は認められず、ほぼ同じ水準を維持しています。

火山灰の放出を伴う噴火は 2002（平成 14）年 11 月 24 日の小噴火以来観測されていません。

全磁力観測からは、山頂火口直下の温度は 2002（平成 14）年夏以降長期的に低下していることが推定されます。火口内の表面温度も、長期的に低下しています。

連続的に発生している火山性微動の振幅は長期的には小さくなっています。山頂直下の火山性地震の活動は継続しています。

活動の開始以来観測されてきた三宅島の収縮を示す地殻変動は、2002（平成 14）年 8 月頃から停止していましたが、2003（平成 15）年 6 月頃から再び収縮傾向となっています。2002（平成 14）年 8 月頃から 2003（平成 15）年 6 月頃までの収縮の停止は、地下深部からのマグマの供給の一時的な増加に伴うものと推定されます。

以上のように、三宅島の火山活動は、全体としてゆっくりと低下してきていますが、三宅島の収縮傾向に一時的な変動が見られるなど短期的には揺らぎがあります。また、最近 1 年あまり火山ガス放出量はほぼ横ばいとなっております。

三宅島では、今後も局所的に高い二酸化硫黄濃度が観測されることもありますので、風下に当たる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも引き続き注意が必要です。